



クローズアップ CLOSE UP

岡本太郎の思想を知る

12月15日にアーツ前橋で企画展「岡本太郎と『今日の芸術』 絵はすべての人の創るもの」の展示作品を学芸員が解説するギャラリーツアーを実施。参加者は岡本太郎のメッセージを読み解きながら作品を見て回りました。企画展は1月14日(月)まで開催中です。



議場に音色響かせる

議場コンサートを12月14日に開催。富士見中吹奏楽部の1・2年生が「赤城嶺に」や「Let's swing」などを演奏し盛り上がりました。生徒の元気な曲目紹介に傍聴者が笑顔になる場面も。アンコールも行われ、演奏終了後には大きな拍手が送られました。



迫真の演技で観客魅了

12月16日に昌賢学園まえばしホールで、市民芸術文化祭の演劇公演を行いました。演目は、明治期の芝居小屋などを舞台に、主従の入れ替わりがもたらす悲喜劇を描いた「もとの黙阿弥」。来場者は、華やかな舞台と迫真の演技に引き込まれていました。

CITY WATCHING

1月13日(日)に開催予定の、第71回前橋市成人祝で企画運営委員長を務める永島さん。同い年の23人の実行委員と協力して一生に一度の晴れ舞台の準備を進めている。

「全体の流れを決めたり、前橋市内の名所を巡った動画を作成したりしています。実行委員同士は初対面で初めは不安もありましたが、みんな積極的に取り組んでいます」

現在大学でスポーツのトレーナーやマネジメントについて学ぶ学部在籍する永島さん。小3からサッカーを始め高校時代は青森県の強豪校で腕を磨いたサッカー少年だ。「卒業後はサッカー関係の仕事

事か、サッカーに打ち込んできたからこそ今までやってこなかったような仕事をしたい」「正直、成人の実感はまだまだ湧いていません。だけど、少しずつ大人として成人として、責任を持って行動していきたいと思っています」

将来について等身大の考えを話す永島さん。式典では久しぶりの友人と会うのが楽しみとしながらも、「平成最後の成人式。まずは成功させることに。みんなの記憶に残る式にします」と語る。

既に芽生えている責任感とこれまで培ってきたチームプレーのスキルで、式典を成功させることだろう。

みんなの記憶に残る式に

いきいき
まえばし人

成人祝企画運営委員長
永島 卓徒さん・20歳
鶴が谷町



朗読の感想を伝え合う二人

● 芥川作品の朗読
萩原 芥川の作品は読んでみてどんな印象でしたか。
迎 どれも一つの作品として完結していますよね。時間の関係で少し短くしたくても絶対許さないし、揺るぎないからあつちをやめてこつちにしようができません。全く無駄がないというか、すごくしっかりと構築されている印象です。

● 朔太郎の詩と印象
萩原 朔太郎の詩も朗読していますよね。どうですか。
迎 すよね。どうですか。

萩原朔美文学館長が各界の著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長の素顔に迫ります。今回はアナウンサーの迎康子さんの朗読&トーク「芥川を読む」(一部)をお届けします。

萩原朔美
河畔奇譚



vol.11

前橋文学館
☎ 027-235-8011

迎 とてもリズムがよくて映像的ですよね。朔太郎は音楽やカメラもやっていたし、おそらく自分で音楽や映像を感じながら作っているんじゃないかな。芥川は朔太郎を詩人であり思想家でもあると言っている、「宿命は不幸にも萩原君には理智を与へた」「理智はいつもダイナマイトである。時にはその所有者自身をも粉碎せずには置かぬダイナマイトである」と表現したようですね。

萩原 何かものを作る時には自意識も超えて自由に至らないといけないんですけど、芥川は理智を重ねて自由に至ろうと思った人。朔太郎は感性から理智に行って自由に至ろうと思った人で逆なんです。迎 だけど芥川は、自分が一番朔太郎を理解していると言っているのが面白いと思います。



観客の質問に丁寧に答える迎さん